

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人東京芸術大学

1 全体評価

東京芸術大学は、我が国唯一の国立総合芸術大学として、創立以来の自由と創造の精神を尊重し、教育研究と社会連携活動の推進を通じて我が国の芸術文化の発展について指導的役割を果たすことを使命としている。第3期中期目標期間においては、世界最高峰の芸術大学への飛躍を目指し、国際舞台で活躍できる卓越した芸術家・研究者を育成することや、伝統文化の継承と新しい芸術表現の創造を推進すること等を基本的な目標に掲げている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、海外大学と連携した国際共同授業の実践や、母国の芸術系大学の教員となった元留学生等をイタリア、ミャンマー等世界6か国・地域から招へいし、同窓会サミットを通じた国際的ネットワークの構築に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 領域融合型のメディア研究・実践として、パリ第4大学（フランス）、スタンフォード大学（米国）、ボルドー芸術大学（フランス）、カナダ国立映画制作庁と連携して、音楽と映像を横断した領域融合型の実践的なメディア研究を行う国際ネットワークを構築するプロジェクト「マルチメディア・コンテンツに関する領域融合・実践型国際研究ネットワーク形成」を開始するなど、国際的な共同研究体制を構築したこと等により、海外の芸術系大学等との国際交流協定について、連携機関数は84機関となっている。（ユニット「海外一線級アーティストユニット誘致を基軸とした『グローバル展開戦略』」に関する取組）
- 戦略的に取り組む事項についての情報収集、分析・評価を行い、大学改革・機能強化に向けた企画立案を行うことを目的に、学長の下に設置された「戦略企画インテリジェンスユニット」において、芸術系大学の評価をどのようにして行うべきかの指針の検討を実施しており、「芸術系大学における先導的ブランディング・レビューシステム構築」を取りまとめている。また、学長及び戦略企画インテリジェンスユニットが中心となり、キャリア支援やダイバーシティ環境整備等を盛り込んだ「学長宣言2016～芸術の持つ無限の可能性～」及び「大学改革・機能強化推進戦略2016」を新たに策定し、学長のリーダーシップの下、社会に対して、大学改革・機能強化推進に係る具体的な戦略・取組等を公表している。（ユニット「マネジメント人材の獲得・登用や人事・給与システム改革等による大学経営力強化戦略」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 年度計画を著しく上回る目標の達成

年度計画【51-1】に関して、「東京芸術大学基金」について12億4,000万円を獲得しており、年度計画に掲げる目標である「2億円以上」を著しく上回っていると認められる。

○ 受託研究・共同研究の受入れに向けた積極的な取組の実施

受託研究・受託事業等について積極的な受入れを行うため、間接経費の配分方法見直しによる実施研究室へのインセンティブ付与制度を構築し、運用を開始している。こうした取組等を実施した結果、受託研究・共同研究受入額は約4億3,500万円（対前年度比約3,700万円増）、受託事業・共同事業受入額は約2億9,800万円（対前年度比約1億2,400万円増）となっている。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等及び安全管理 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学長直下の組織によるキャンパス整備の実施

大学キャンパス及び施設に関する企画立案及びその実施を推進するため、学長直下に「キャンパス・マネジメント委員会」を新たに設置するとともに、新たに策定した「既存施設の質的向上PLAN」に基づき、女子学生や障害を持つ学生等に対応した施設改修、省エネルギー設備の更新、光熱費の適正化に向けた取組等を計画的に実施している。特に附属高校及び大学会館においては、LED照明器具を導入するなどの取組を実施しており、上野校地では基準年平均値から21%のCO₂が削減され、年度計画に掲げる目標である17%を上回っている。

平成28年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

○ 情報セキュリティマネジメント上の課題

情報セキュリティを脅かす確率が高い事例が発生し、また、必要な情報セキュリティ対策が講じられているとは言えないことから、再発防止に向けた組織的な取組を更に実施することが望まれる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 海外大学と連携した国際共同授業の実践

新たに設置されたグローバルアートプラクティス専攻が中心となり、パリ国立高等美術学校（フランス）、ロンドン芸術大学（英国）、シカゴ美術館附属美術大学（米国）との国際共同授業「グローバルアート国際共同カリキュラム」を実施している。学生は双方の国を訪れ、リサーチやディスカッション等を通じて協働により作品制作等を実施し、それらの成果は、フランス世界遺産シャンボール城や、シカゴ・サリバン・ギャラリー、国際芸術祭「瀬戸内国際芸術祭2016」において発表されている。

○ 芸術による地域活性化・復興支援

芸術系大学連携による「アーツプロジェクト」を実施し、気仙沼市及び熊本市において、各地域の教育委員会等と連携しながら、地元の小中学生を対象とした楽器の実技指導や美術作品制作補助を行っているほか、若手芸術家と被災地の子供とのコラボレーションによる「復興のためのファンファーレ」、「復興の歌」の作曲・演奏を行っている。さらに、小学生を対象とし、日本の伝統文化体験である「日本舞踊」のワークショップを実施するなど、芸術による地域活性化・復興支援等のための取組を実施している。

○ ASEAN諸国との連携推進

CLMV（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）諸国等の国立芸術大学と連携して、「日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション」を新たに開始している。ASEAN諸国との文化交流の推進等を目的に、連携海外大学と双方の特色を生かしたプログラムを構築しており、4大学・機関に延べ14名の教職員及び22名の学生をユニット派遣し、共同授業や協働社会実践等に取り組んでいるほか、延べ14名の教職員及び20名の学生を招へいしている。

○ 同窓会サミットを通じた国際的ネットワークの構築

世界各地で活動する元留学生との交流を活性化し持続的な人のネットワークを構築するとともに、海外における大学の存在感の向上を目的として、現在母国の芸術系大学の教員となった元留学生等をイタリア、ミャンマー等世界6カ国・地域から招へいし、国際同窓会サミット「Global Homecoming 2016」を新たに開催している。現在在籍している外国人留学生及び日本人学生の国際的な視野を広げる機会として特別講義やトークセッションを実施するなど、大学と諸外国の様々な機関・人材との今後の交流に向けた国際ネットワークの形成・拡大に取り組んでいる。